



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ジョン・バチエラーが遺したもの：旭川におけるバイブル・ウーマンの足跡
Author(s)	下田, 尊久
Citation	基督教學, 48, 36-40
Issue Date	2013-07-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62407
Type	journal article
File Information	04shimoda.pdf



である。

以上挙げた二点のように、時代と共に重要視され具体化するテーマがある一方で、テーマ項目から外されていく「他者」も存在している。たとえばカリキュラム指導要領において、カトリック宗教科のテーマ項目「世界宗教」に含まれていた「中国の宇宙神教」や、カトリックおよびプロテスタント宗教科で「代替宗教」とされていたスポーツや政治における個人崇拜、イデオロギーの宗教的側面といった点は、後の指導要領では言及されなくなっている。

今後はさらに他宗教、他宗派、他の宗教的諸潮流に関して各宗教科で用いられる概念などをより詳しく分析することで、各宗教団体の「他者」像をより具体的に明らかにし、「他者」像のグラデーションを描き出していきたいと考えている。

研究発表要旨

ジョン・バチエラーが 遺したもの

―旭川におけるバイブル・ ウーマンの足跡―

下 田 尊 久

本発表は、Church Missionary Society (CMS) (CMS 伝道協会、英国教会伝道協会、英国聖公会海外伝道協会などの訳もあり) から派遣された英国人宣教師ジョン・バチエラー (John Batchelor 1854-1944) と三人の女性伝道師 (金成マツ、向井八重子、兵頭ジョウ) の旭川での活動記録を検証しようとするものである。明治期北海道におけるCMSの足跡は、日本聖公会北海道教区、所縁の地域の団体や教会にある遺品、CMS本部に保存された宣教師監督者の年次報告書や宣教師の家族・関係者が

ら寄贈された日記や手紙などの記録資料が一次資料である。バチエラーは半世紀に及ぶ活動で多くの記録を残している。教区や各教会が各々これらの原資料をもとに編纂発行している周年記念誌、なかでも北海道教区編集の『教区九十年史』は、教会内外で使用される被引用文献の代表である。これら研究成果においてその根拠の違いが目立つようになってきたことから、引用文献の情報源の所在を含めた検証が必要だと考えている。

CMS 海外宣教の社会的背景を見ると、一八世紀半ばの奴隷貿易で富を得ていた大英帝国の姿がある。英国本島の人口急増とグローバル化による急速な都市化が教区教会を中心とした農村社会から、都市型の新しい社会を形成した。教会の礼拝出席者が激減する中、信仰復興運動が盛んとなり多くの海外宣教も生まれた。この頃、奴隷貿易の船長をしていたJ・ニュートンは自らを悔いて聖職者となり、「アメージング・グレース」を作詞。CMS創設者の一人であり、影響を受けた下院議員W・ウィルバーフォース（一七五九―一八三三）は、奴隷貿易廃止法を実現した。CMSは一七九九年に奴隷貿易廃止

や福音主義的社会改革をめざす有志により発足したことに注目したい。CMSの海外宣教はアフリカ大陸から、中国大陸に及ぶ。海外での宣教活動は当時の大英帝国において女性が家庭から社会へ出る後押しもした。北海道に多くの女性宣教師を得た背景でもある。CMSの海外宣教における女性の役割は、宣教師夫人による夫の活動の支援が中心であったが、子女の教育や医療活動も加わり、一八九九年末のCMS統計では宣教師一三四名のうち三二三名が夫人、二八一名が独身女性となる。またCMSは現地で宣教師の活動を補佐するバイブル・ウーマン（婦人伝道師、聖書研究補助員と訳されている）と呼ばれる伝道師を養成する。

ジョン・バチエラー（一八五四―一九四四）は労働者階級出身で、一四歳から苦学して学業を終え、海外宣教を志す。一八七六年、CMS宣教師となるため香港のカレッジに入学を許可されるが、病氣（咽頭炎、マラリヤなどの諸記述あり）となり転地療養で、日本のCMS宣教活動の拠点の一つ函館に上陸する。路上でアイヌと出会い、蔑視されたアイヌの惨状を知り、周辺のコタンや

平取に赴きアイヌ語の習得を決意する。一九七九年、CMSの信徒伝道師としてアイヌ伝道を開始。一八八七年に東京で執事按手（翌年長老按手）。翌年、最初のアイヌ学校「愛隣学校」を公立の土人学校より早く幌別（のち函館に移る）に開校、以後各地に開校。アイヌ子女にアイヌ語の読み書きをローマ字で教えたことは注目すべきである。その他、CMSの資金で日本人のための釧路英和女学校、函館靖和女学校も開校、公立校の授業に加え英語、裁縫、宗教教育などを行っている。CMS宣教師退職後も札幌に残り、アイヌ施療病室や寄宿舎など一九四〇年の離日までアイヌのための活動は止むことはなかった。しかし、日本政府のアイヌ教育は同化政策であり、日本語によるリテラシー教育が次第に確立していく中で、アイヌの民族としての自覚を促す活動は、妨害や制約を受け、学校はその使命を終え閉鎖、アイヌ会衆もその受洗者も激減していく。

旭川におけるCMSの宣教活動が及ぶのは一八九五年のジョージ・C・ニベン師の札幌着任による。同年、伝道地は札幌から永山村に及ぶ。これに先立つ一八八七年

二月、CMSの函館伝道開始から十二年目に「日本聖公会」設立。北海道地区は北海道地方部となり、函館を中心に、札幌、小樽、釧路の四伝道区が設定された。日本聖公会設立後も北海道地方部はCMSの監督が続く。設立の翌年、函館教会の管理司祭W・アンデレスの休暇帰英とともに幌別にいて釧路を管理していたバチエラーが函館教会も管理することになる。一方、旭川聖マルコ教会の記念誌『北の忠別から』は、一八九一年に永山村に徳島から屯田兵として入植した信者吉本孝徳の家庭集会を「旭川聖マルコ教会の起り」とし、一八九五年のニベン師の来旭を「旭川聖マルコ教会宣教開始の起点」とする。この地の講義所は一八九六年に永山、翌年に忠別（のちの旭川）に開設。一九〇二年には、土地を得て旭川聖公会創立。バチエラーは一九〇七から三年間コタンのある近文講義所の管理者となり、一九〇九年には近文講義所に金成マツ、さらに新講義所を開設し婦人宣教師ミス・A・エバンスを派遣する。同年、旭川聖公会の新会堂が建築されている。

バイブル・ウーマンの活動の記録は教会史としては余

り遺されていない。バイブル・ウーマンはCMSから派遣された婦人宣教師に随伴し宣教活動の補佐の働きをしているが宣教師達から多くの智慧や知識なども学ぶ。バチエラー自ら見出したバイブル・ウーマンは、婦人宣教師帰国後もそれぞれその足跡を残している。

金成マツ（一八七五―一九六二）は、幌別のカンナリ・ハエリル（金成恵理雄）とユーカラ伝承者モナシノウクの長女。一八九八年（明三二）から三〇年にわたりバイブル・ウーマン（一八九八―一九二八）として働く。一八九二年幌別のアイヌ学校（愛隣学校）に妹ナミ（一八七九―一九六四）と共に入学。その後、函館伝道学校に進学。一八九八年卒業と同時に婦人宣教師ミス・ブライアントとともに平取に着任。一九〇九年、近文講義所に異動。妹ナミは、一八九八年マツとともに函館から平取に着任するが二年後、ブライアント帰国と同時に幌別に帰郷。一九〇二年、登別の知里高吉と結婚。幸恵、高央、真志保、芳枝の母となる。幸恵は七歳から祖母モナシウクとともに旭川の伯母マツと同居。金田一京助はバチエラーの紹介でモナシノウクを訪ね、幸恵と出会う。

これが一九二三年のローマ字によるユーカラ記述『アイヌ神謡集』出版へと導かれる。幸恵没後の一九二九年、マツは、五三歳で婦人伝道師を辞任し、幸恵の志を継ぎ金田一の協力を得てウタリのユーカラを記述、一九三一年に歌集『若きウタリに』を発刊した。「知里幸恵銀のしずく記念館」館長の横山むつみは高央の娘。幸恵も真志保もローマ字を学んだことでアイヌ語を書き遺すことが出来た。

向井フチ（八重子）（一八八四―一九六二）は、向井富蔵・フツチセの次女。弟・山雄は聖公会司祭。七歳で受洗、一三歳で札幌に出てバチエラーの「アイヌ・ガールズ・ホーム」に入所。一九〇二年、一八歳でバイブル・ウーマンとなり、翌年、バチエラー夫妻とともに渡英、二八歳で夫妻の養子となる。道内や樺太のコタンを巡回、その働きは広く知られているが教会の記録としては見出せなかった。バチエラー帰英後、有珠に戻り教会堂傍の自宅に住み、弟向井山雄司祭を助け、バチエラーの愛読書および遺品を守りながらひっそりと暮らす。一九六二年旅先の京都で七七歳の生涯を閉じた。

兵頭襄（讓、ジョウ）（一八九六一一九七八）は、ここで紹介する唯一のアイヌではない女性伝道師。父は兵頭虎雄（伊達亘理藩の入植者で札幌農学校一期生中退）。一八九六年 一家は移住先伊達紋別を離れ似湾（現穂別町栄）に開拓移住。一八九八年 バチエラーの似湾巡回の際に兄弟姉妹全員が受洗。一九〇〇年函館に出て靖和女学校に入学。一八歳で函館神学校に入学。コロボン師の医療伝道を助け施療前の患者に聖書の話をしていたという。一九一〇年、函館でアンデレス主教より聖公会の婦人伝道師を命ぜられる。（任命書は讓）一九一二年、八重子とバチエラーの樺太伝道に随伴。アイヌ・コタン等を巡回。同年、ミス・エバンスのもと旭川聖公会の婦人伝道師となるが、その二年後にはミス・ステイブンスとともに札幌、翌年、小樽に転任。一九二〇年、司祭松本正雄と結婚。司祭の市川転出によりその後の市川における開拓伝道を支える大きな力となる。

CMSの記録資料は、英国バーミンガム大学とオックスフォード近郊のCMS本部にある。製本された年次報告書や写真、フィルム、書簡類の一部は本部図書館にアー

カイブズとして保存されているが多くの資料は、バーミンガム大学図書館アーカイブズ部門に移管所蔵している。一方、宣教師や関係者が所有保存していた資料も研究者によって調査研究がなされ公表されている。しかしながらなかには原資料の所在や入手経緯が記されているがその後不明となったものもあることがわかってきた。これら原資料にはその背景となる継承すべき信仰の歩みが刻まれている。引用参考資料よりも個別に作成された教会史だけが「記録保存」の対象になり、貴重な原資料を失いつつある教会アーカイブズの現状に危機感を持った。信仰の継承におけるその役割に焦点を充て、今後は、教会における記録保存にあり方についてさらに研究を続けたい。